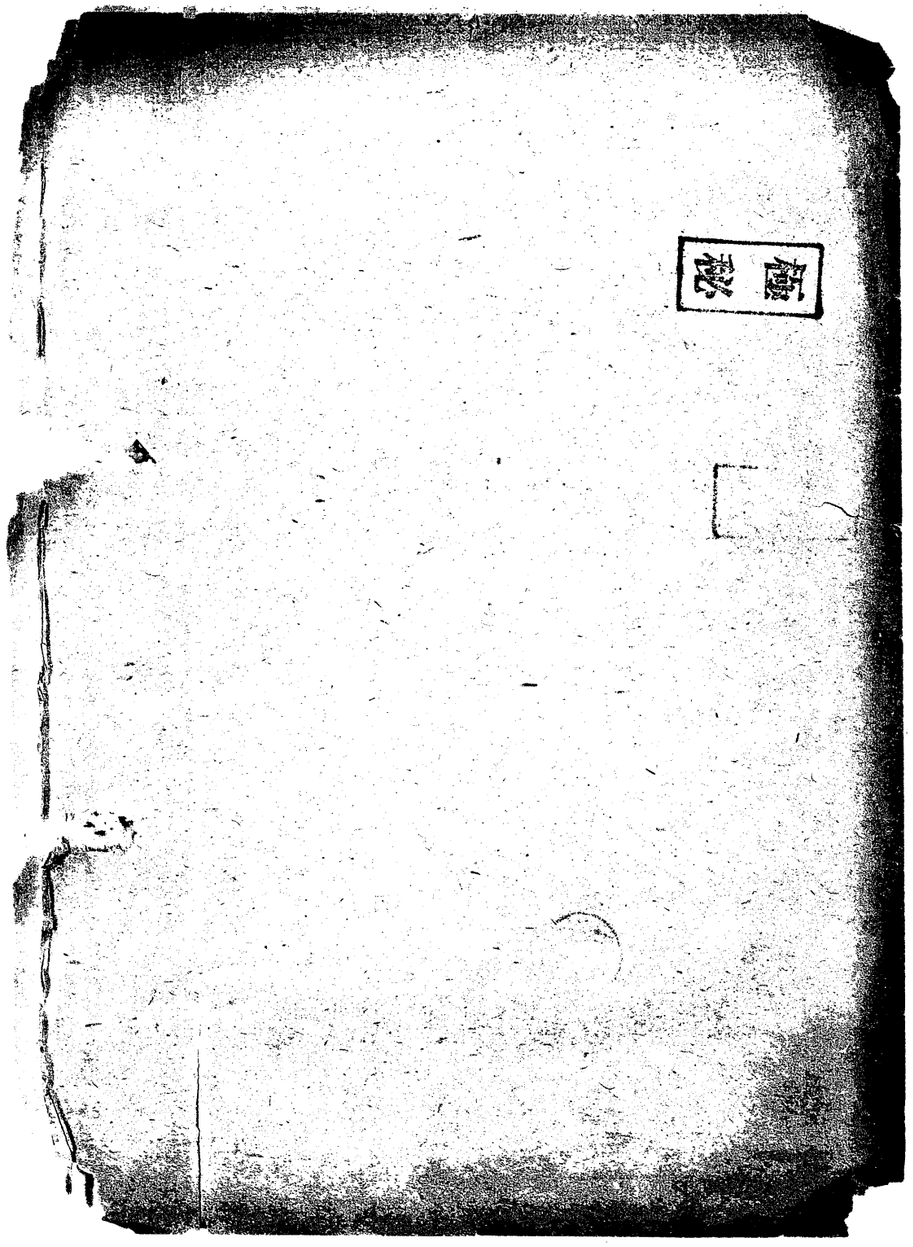


REEL No. A-0811

0258

アジア歴史資料センター

破損著しいため
取扱注意

※コピー有

外務省
東京都千代田区霞が関二丁目2番1号
電話 東京(3580)3311番
郵便番号100

REEL No. A-0811

0259

アジア歴史資料センター

昭和三年九月二十二日於外務省小會議室張作霖爆殺事件調査特別委員會ニ於ケル田中内閣總理大臣訓示

張作霖爆殺事件ニツイテハ事件以來關東軍、領事館及關東廳ニ於テ夫々真相調査ニ力メ居ルモ今日迄其真相突止メ得サルニツイテハ更ニ一段ノ努力ヲ以テ各關係官廳ニ於テ其ノ調査ノ歩ヲ進ムル事ヲ希望スルモ同時ニ調査ノ便宜並統一ノ為時局以來外務省ニ開催シ來リタル外務陸海軍連絡會議ニ於テ一特別委員會ヲ作リ右委員會ニ於テハ張作霖爆殺事件ノ真相調査ノ方針ノ下ニ夫々各機關ヲ激勵シテ情報並證據ノ蒐集ヲナシ以テ最短期間ニ本大臣宛報告書ヲ作製セム事ヲ望ム、

右特別委員會ノ構成ハ外務政務次官・外務參與官・外務省亞細亞局長・陸軍省軍務局長及關東廳警務局長トシ報告書ハ成ルヘク十月中ニ取纏メ得ル樣努力スヘシ、

尚右調査ノ為特別委員會ヲ設ケ居ル事ハ當分ノ中絶對之ヲ極秘トスヘシ、

外務省

REEL No. A-0811

0260

アジア歴史資料センター

[redacted]

[illegible]爆破する件

奉天
本省　昭和三年一月五日接着

田中外務大臣　林總領事

第二六五号ノ一

往電第二六二号ニ関シ不敢取現場検證ノ必要アリト認メ当方ヨリ内田ニハ代（検事々務取扱）警察署長其他ヲ附シ支那側ヨリ交渉署日本側長ヲ派遣シ旦ツ内現場調査中ナル旨事件当時現場附近鉄道警備ニ当リ居タル我守備隊長（トウミヤ大尉）語ラレタル状況左ノ通

三日午後支那側憲兵隊ヨリ我憲兵隊ニ対シ張作霖

REEL No. A-0811
0261
アジア歴史資料センター

ノ列車通過ノ為皇姑屯ヨリ瀋陽驛間支那側憲兵等者
ヲ以テ警備スヘキニ付滿鉄線路ヲ日本側ニテ警備ア
リタキ旨申出其ノ結果西鉄道「クロス」附近ノ我方警
備ノ爲守備隊ハ特ニ將校(下士以下四十六名)及憲兵
十二名ヲ「クロス」地点ヨリ約百米東南方ノ分遣所
ニ配置シ三日午前八時過ヨリ滿鉄線ヲ警戒シ一方支
那側ハ奉天憲兵中尉ノ指揮下ニ前記五十名ヲ皇姑屯
瀋陽驛間ニ配置シ右京奉線路全部ノ警戒(京奉
線ハ滿鉄線ノ下ヲ通過シ居リ此処右「クロス」地點即チ
滿鉄線ノ橋架ヲモ當日ハ特ニ支那憲兵ニテ警戒セリ)

ニ付シ特ニ遊動的ニ警戒シ居タル模様ニテ我守備隊
側ハ支那側憲兵等ト混合警戒シ而シテ何ハ故ヲ発生
セシメテハ面白カラスト見地ヨリ前記分遣所ニ駐メテ附近
ヲ監視シ時々一二名ヲ巡回セシメテ支那側憲兵ト連絡
ヲ保チ居タルカ午前三時半頃右分遣所附近西方地
点ニ三名ノ支那人挙動怪シキ者ヲ認メタルヲ以テ我兵
之ヲ誰何シタルニ逃走セントセシヲ以テ内二名ヲ突殺シ
タルカ

REEL No. A-0811
0262
アジア歴史資料センター

昭和三年七月三日 時 奉天 六月四日 佐藤

田中外務大臣 林総領事

沖三六 立号ノニ

同支那人ノ爆弾事件ニ関シ爆弾ト認メラレ

漢口ナリ 平戦アリ 封筒ニ附属地第一ノ住所ト

三者宣撫使 湊員清ノ名ヲ認メタリ 其ノ後別住ノ男

状ヲ認メタル次第ニ在ル(右ス)地点附近ニ

カ住来ヲ禁ジタリ(同ノ地点ノ平素常ニ住人ノ往来

頻繁ナリ) 其ノ後別条ナカリシ 模様ナリシ 知事分

五名米国人、宣教師(大[illegible]爆者ト共ニ現場附近ニ

トナリタルカ内ヲナリ現場ニテ逮捕実況四方ニ発射セラレ

(右ハ被害列車ヨリ飛降リタル支那側護衛兵ノ発

射セルモノ)中(発該行違所ニ中ル模様ナルモ我ニハ

応射セス右ノ支那側ノ発射ハ我ニヲ狙ヒタルニ非スシテ

宣撫隊際所構ハス発射セルモノト認ム)恢ヘ居ル銃

撃ハ一方爆列直後蔡軍官ノ官駆ケ付ケシニ

自動車後続シ来リ該自動車ニ搭乗シ模様其ノ他事

情ハ一向ハル模様ナリ

現場ニ於ケル死体其ノ他ニ付キ模様ハ居リ其ノ数

REEL No. A-0811

0263

アジア歴史資料センター

判明セル数ヲ挙ケタ（[illegible]）

尚張作霖及同盟軍ノ外国ヲ援助、莫德惠ヲ使セシメ及之ニ幸線ハ別条ナシ、爆薬ハ多量ニト

セシモ一日個ノ誤ニテ隊ノ移動ニ際シ置キ度シ化

拠ニテ爆発セシメタル模様ナリ詳細更ニ度報ス

北京、天津ハ海、哈爾賓、吉林、安東、牛荘、長春、

内島、奇々哈爾、錦州、鄭家屯、鉄山領、奉陽（[illegible]）

度セリ

如報ス七二八七

田中外務大臣　奉天　吉月五日発着

林総領事

神二七〇号

往電第二五五号関

内閣ノ命令ニ基ク

一、列車ハ橋下所山線路ニ張作霖、失役陸及蒙兵ノ

乗ノ居ル兵営ニテ食堂車及寝台車ノ順序

ニテ三輪弾ヲ投ジ其ノ爆発ニ依リ線路ハ破壊セル鉄柵車輪ノ爆弾ノ命中セル食

堂車ニ爆発ト火災ノ為鉄骨ノ留ルノミ炎焼

寝車ハ全焼、寝台等四十名中八名残リ寝台

REEL No. A-0811

0264

アジア歴史資料センター

車ハ焼棄シタル後実車中板室ニ居タル張ノ「ボーイ」
ト称シ食堂車中ニ二三ノ数人モ其ノ数未タ判明
セス爆破ノ張ノ居室ヲ相ヒテ其ノ隣室ト食堂車ハ
外レタルモノ如シ此ノ飲み其人ノ御話ノ言ニ依レバ左ノ者
側損失約二十六四内外ノ由。
二、線路列車通路ニ於ケル車体上ノ満鉄線「ブリ
ッジ」ハ隆起シ満鉄線ハ不通ト為リ急キ仮橋建設
中差当リ一列宛ノ徒歩連絡ニテ列車運転満鉄
側損害五六百万円ノ由。
三、爆弾ハ多ク車体ノ上部ヲ破損シ居レル外果シテ

(五)化粧セルトンネルノ外ハ破壊車輌取除キノ
上更ニ立会調査ノ結果。(続)
四、佐慶ガ二十五名我守備隊ノ為安全ト称サレル支
那人ノ携帯セル手榴弾ハ常常甲物ニシテ横
字ノ手紙ニ通ハ上部ニ「名民革命軍関東
拡撫使」「甲第」左右ニ「国民革命未成功」ト
書字印刷ノ書翰用紙ニ此ノ好機逸ヒ来ラス
此際快ハスヘシト称ノ趣旨ヲ認メタルモノニシテ他ノ二通ハ私
信用紙ニ書号ヲ以テ書シタルモノナリ又酸ハ何レモ佐
ノ者ニシテ刈ノ者ニシテ青坊子路チ

REEL No. A-0811
0265
アジア歴史資料センター

右ノ工事ハ便衣隊ヲ捕ヘ居ル部側ヨリ部側ニ対スル認識ヲ解カシメ相手ノ知ラザリシコトヲ知シ

又、音響及振動ノ程度ヲ見テ爆薬ハ相当大仕掛ナモノニシテ専門的技能ヲ要スル仕事ト認ヘラル

在支公使ノ報電セリ

日外務省

春次
六月廿日着
本省

村岡領事

五月十日田中部側ト立会ノ上車輌等取調ノ上審検ノ結果ニ依レハ地上ニ爆薬ヲ装置シタル形跡ナク橋上ヨリ陸橋鉄板側面ノ爆薬ニシテ仕掛及ピーアノ上部ハ橋ノ先ヨリ微シ爆薬ノ上部ニ装置セラレタルモノト認ムルモ田中部側ハ橋上ヨリ下ニ吊シタルモノナリト言ヘルモ未ダ橋上「スパン」附近ニ装置セルハアラスヤ線アリ高橋下ニ発見セル屍体ハ二箇個別電ノ「ボール」外ノ分ハ無ニシテ(実)

?

REEL No. A-0811
0266
アジア歴史資料センター

負傷ヶタル鉄甲車内ノ負傷一個ハ自動車ニテ新京ヘ
ナリトノコトニテ其ノ他ニモ相当負傷者アリ等ナキモノ
但シ神ニテ皆ハス
北京ヘ転電ヨリ

奉天発法
負宛見人

奉天
本省

昭和三年六月八日後着

田中外務大臣　林総領事

第二九四号

往電才九九号末段ニ関シ七日附立法負宛犯人逮捕
要求公文要領左ノ通

一、日午前奉天張大元帥ノ座乗セル京奉線列車南満
鉄道ト交叉点ニ於テ何者カ仕掛ケタル爆薬ニ依リ爆破
セラレ道路ヲ張ノ負傷ヲ初メ其他死傷者ヲ出スト共ニ
満鉄側ニテモ陸橋及橋脚破壊等鮮カラサル損害ヲ
受ケタル処其件ハ貴我双方ノ立会審査ノ際ニモ認ムラ

REEL No. A-0811
0267
アジア歴史資料センター

7

1.

奉天
本省　昭和三年六月八日後着

田中外務大臣　林總領事

第二〇〇号ノ〇

重要事件ニ関スル感想国交等ニ付御含迄左ニ申進ス、

一、本官ハ着任後当地ニ於ケル諸方擾乱計畫ニ関シ五月十四日林代理公使ヲ通シ貴電モアリ近来当地方ニ種々ナル邦人所謂浪人往来シ居ル為旁反張、排日空氣相錯雑シテ各種ノ風説傳ハリ中ニ陸軍及満鉄ノ一部ニ倒張計畫ニ加ハリ居ルモノアリ将誠ニヤカニ噂

2.

シタル如ク我守備兵ニ殺サレタル便衣隊ト見ハシキ不良支
鮮人一味ノ犯行ナラスヤト嫌疑セラルルニ付至急犯人逮捕
及此種事件再発防止方措置セラレタシ、
北京、天津、上海ニ転電セリ

REEL No. A-0811
0268
アジア歴史資料センター

スルモノアリシ折柄過般爆弾事件発生シタル為邦人新聞記者等ノ間ニ爆声騒風ヲ聞ケリ数種ヲ打ケシヤ一ハ一遣ッタナ」ト感ジタル者ノ二三ニ止マラサル模様ニテ兎ニ角邦人側ノ内ニモ之ヲ以テ邦人側ノ計画或イハ満鉄、陸軍ノ部ノ計画ナルニアラスヤト考フル二至レル事モ事外交上ノ大事ナルヲ以テ容易ニ口外スヘカラストナシ居ル感アル事実ナリ。

(二) 乍併一方軍主脳部ノ意見ニ依レハ元来此種ノ陰謀カ成功ニ得ヘキモノニアラサルハ勿論ニシテ従来邦人浪人及支那人等カ倒張計画ニ就テハ我政府又ハ陸軍

ノ援助ナク又ハ金モ武器モナケレバ成功ニ得ストテ陸軍側ニ何トカ話込ミ来ル事実ナルモ右ニ対シテハ素ヨリ然ルヘク撥付ケ居ル何等ノ援助等ヲナシタル事ナシト

ノ極ニテ右ハ当然然ルヘキモノト考ヘラル。

(三) 支那清ハ我私服憲兵護送ノ下ニ密ニ大連ニ送リ今件真相取調ヘ中ノ由ナルカ右ニ関シ一説ニヨレハ支那張子楊宇霆其他支那側各方面ニ相当聯絡アル模様ニテ恭親王ノ大連ヨリ来奉セシメタルモ彼ナルカ如ク一方爆弾ノ件ノ際支那憲兵ノ京奉線警戒厳戒振極メテ杜撰ナリシコト、張ノ列車「クロス」通過前附近警戒

REEL No. A-0811
0269
アジア歴史資料センター

一支那兵ノ都合如何ニカ出撃ケタルコト、其他ヨリ察シテ相当ノ
部的聯絡有リシニアラズヤ而カモ本件カ如何ニモ日本側ノ
計画セリト誤解サレ易キ地点ニ行ハレタル為彼ガ著ノ
宣傳ニ乗ジ為ニ日本対張作霖関係ヲ悪化セシメント
彼等ニ利用セラレシカ余リニ迅速ト全ク予ヘリ何レ後ノ取
調其他ニヨリ事件ノ真相ヲ突止ム結果或ハ意外ノ
方面ノ策動ナリシヲ発見セラレ真相明ラカニナルベシト
ノ言ヲ是亦右ノ一ニテ支那人中ニモ同様ノ意見ヲ有
スルモノアルカ如シ。

(四) 然レトモ一方後ヲ知ル邦人ノ談ヨレハ後ノ金モナク口ニヲ

大言壮語スレ斯ル大計画ヲ企テ得ル人物ニ非ズ彼ノ目的ハ
結局金ニアリ現ニ本件発端ノ本人ハ向平氣ノ態度ニテ
附属地内ニ悠々シテ長リ事件直前偶々後ノ書輪顔ハ少
ク如キモ見方ニ依リテ単ニ利用セラレタルカ如キ感アリト
ノ意見ヲ有スル者モアリ
事情右ノ通リニテ本件真相ハ後ノ取調其ノ他特ニノ経過
ト共ニ或ハ判明スベキモ右御参考迄

REEL No. A-0811
0298
アジア歴史資料センター

8

機密第一八号　昭和三年六月八日

在奉天總領事　林久治郎

外務大臣男爵田中義一殿

井田哲ノ語法送付ノ件

別添井田哲ヲ当館問野副領事ヘ来訪要領時折柳塚参考迄送付ス

本信写送付先　在支公使　牛莊領事

（渡印清ニ関スル モノナリ）

昭和三年五月二十四日午后二時半井田哲来館談話要領

一、自分（井田）ハ当日ニ現任ニ当リ厚発合航記ノ場所ニ

テ三菱商事株式会社満蒙課代理ナリ、

一、井田ハ五月十九日岸田領事ト共ニ来奉シ目下松隆洋行ニ止宿シ居ル処三、四日中ニハ帰営ノ豫定ナリ、

一、渡印清トハ大正十三年以来ノ知己ナリ、渡ハ約一ヶ月以前ニ保定ニ赴キ張学良及楊宇霆ニ面会シ上海其他南方ノ近況ヲ通報シタリ渡ハ元来張作霖及楊宇霆ニ対シテハ電報ヲ振発シ居ラザルモ東三省ニ或野心ヲ有スルカ為作霖、宇霆ト連絡ヲ取リ居レリ、

一、張作霖ハ渡及李景林ノ首ニ付テハ十萬元ノ懸賞ヲ附シ居レリ但シ学良、宇霆ハ南方ノ状況ヲ知ル為ニ渡ヲ使用

REEL No. A-0811
0271
アジア歴史資料センター

ニ居ルモノナリ、

一、凌ハ目下直隷、山東、河南三省ノ招撫使ニシテ専ラ南北ノ現勢ニ付調査ヲ遂ケツヽアリ凌ハ招撫使ノ現職ニ在ル関係上軍方ニ部下約一箇人ヲ有シ尚銃器ヲ始メ其他量多ク所有セルカ但弾薬ヲ有セス、

一、凌ハ目下奉天附属地ニ居住セルカ同人ハ将来東三省現在ノ各機関ヲ顧覆シ自分(凌)ニ於テ満洲ヲ統治シ進ンテ日支ノ関係ヲ密接ナラシメントノ意志ヲ有ス其顧覆ノ理由トシテハ満洲ヲ一種特別ノ区域ニ改造シ飽迄ニ省人ニテ東三省ヲ治メ自政ヲ改革シテ以テ日支関係

ヲ増進セントスルニ存リ、

一、凌目下何等カヲ起スニ必要ナル資金ヲ有セスシテ其日々生活費ハ十分ナラサル模様ナリ然ラハ如何ナル方法ニテ資金ヲ集ムヘキカ又顧覆ノ方策如何トスルニ

(一)顧覆ハ先ツ武力ニ依ラハ可能ナレハ金五十万円ニテ各機関ヲ買収シ凌ノ味ニ引入レル

此資金調達ハ遼陽ヨリ新邱ニ至ル運炭線敷設権ヲ支那側ヨリ得タル後之ヲ満鉄会社ニ賣込ミ同社ヨリ右金員調達ヲ得ンニアリ尤モ此ノ話未タ満鉄ノ何人ニモ語レル居ラサルカ自分(井出)ノ従弟カ目下北京ニアリ

REEL No. A-0811
0292
アジア歴史資料センター

テ専ラ此ノ件ニ付研究ヲ重ネツツアリ（敷設權獲得ニ関シ奔走シ居レリ）若シ有望トナラハ満鉄ニ話ヲ持掛ケル積ニテ種々考慮ヲ廻シ居レリ、

(二) 渡ハ五十万円ニテ十分東三省有力機関ヲ買収シ得見込ナリ其買収ノ任ニハ渡ノ部下ヲ使用スル筈ニテ既ニ成功セハ渡自身東三省ノ首脳者トナル計畫ナリ、

一、自分（井田）ハ當日奉ニ東三省ニ現住スル鮮人ノ境遇ニ関シ且日本ノ対滿策ニ顧ミ張作霖ノ如キ人物カニ省ノ首脳タル間ハ鮮人並ニ内地人ノ境遇ハ改善サレス又帝国ノ国威ヲモ発揚ニ至ラサルヘシト斯クテハ高組問題其他

重要懸案ハ解決ノ見望ナキヲ以テ東三省當局ノ組織ヲ改造シ新人ヲ利権獲得ノ必要上偶然ニモ自分ノ意志カ渡ノ計畫ニヨル目的ニ符合シ尚渡トハ先キ日本ニ於テ出会ヒタルハ果ヲ以テ機ニ共同動作ヲ執ラントス決心ヲ見ルニ至レリ渡モ自分モ勿論武器ニヨリ擾乱ヲ惹起セムトハ固論見居ラス全然買収ニヨル考ナリ、

一、尚自分（井田）ノ東三省組織書更ニ関スル政策ハ綱領ハ何レ河野ノ参考迄ニ郵送スヘシ、

一、井田ハ渡ノ性質ヨリ観察スルニ渡ヲ赤化主義ニモアラス又三民主義者ニモアラス唯単純ナル天魔ニ民

REEL No. A-0811
0293
アジア歴史資料センター

7

福増進ノ意志ヲ有スルモノナリ、

一、井田ハ岸田鎮事ニ対シ自己ノ主義政策無其遂行ニ関シ内話セシ処遼陽、新邱間ニ運炭線敷設ノ如キハ奉天館及ニシテ日本ノ関知セサル所ナルモ井田ノ右運炭線並計画ノ大略ハ奉天領ヲ経ニ通シ還々トノ話アリ

8、次オナリ云云、

8

将来平定了必行的政策約分三期

第一期

一、実行戸籍法、以清盗保対外省移来者必須取締　其細則另定

一、整頓三省銭法（如東三省官銀号永衡廣信等所有雑乱紙幣一概停止規定定額価値另行現大洋紙幣將原有各雑乱紙幣回収銷

一、合減損税　以疎民困

一、開拓実業（如墾荒開鉱栽植森林　細則另定牧養水利等）以企財源

REEL No. A-0811

0294

アジア歴史資料センター

第二期

一、肅清吏治整潔官　改制簡便的清廉的官級

大略預定如下

(一)關東軍政公署係軍政(二)軍司令部(三)政務廳　交涉署　實業廳　財政廳　警察廳　市政廳(四)酌定應用陸軍若干改軍政廳及憲兵部

(五)各縣知事　縣警所　縣公款處　縣市政

縣教育　縣農會　縣商会　縣公会　各縣特別交涉分署(現在道尹這個職)(六)省議会

縣議会　鄉議会

一、稅捐劃一　分清国稅　省稅　地方稅

一、實行強迫教育　依才一期內戶籍法則已得兒童教育之知令教育廳督飭地方官及縣教育公所並縣議会協同進行

第三期

一、實行禁絕阿片

一、肅清風俗　如娼窰劇館以及其他有傷風化者

一、實行四無教育風化　又名四無政綱(一)使国無盜(二)使不無游民(三)使室內無怨女不准有双妻

REEL No. A-0811
0295
アジア歴史資料センター

(四)使世会固無疑矣

以上政策分三期不過大略定之將来或有詳加研究逐細訂定總而言之、大略必如是也決於六個年間辦到完全地步

奉天本省 昭和三年六月十三日 發着

田中外務大臣 林總領事

第三二〇号

本官発電報合第一三六号御参考迄在ニ転電ス

今次爆発事件ニ関シ支那側其他ニ於テ之ヲ日本側甚タシキ迄我軍憲側ノ所為ナル如ク臆測シ何カト誠ニ十カ宣伝流説ヲ為スモノアル処彼等カ日本側ノ所為ナリト推測スル理由ハ要スルニ

(一)最近当地方日本側ノ反張空氣漸ク盛ン一方支那側ノ反日氣分亦濃厚ニ至リ何等カノ事件勃発ヲ予想シ居

爆破事件日本側ノ計画ニ非ル理由

(英国陸軍ノ調査ニ基ク)

英米、伯国潮、新嘉坡等

REEL No. A-0811

0296

アジア歴史資料センター

アリシ所折柄偶々事件ガ我鉄道附属地内ニ行ハレタル
コト

(二) 右爆弾ガ極メテ正確ニ確ニ行ハレ又非常ナル威力ヲ発シ従テ爆薬モ多量ナルヘシト一般ニ信シ到底一二支那人便衣隊ニヨリ行ハレ得ヘキモノニアラス裏組織的ニ計画セラレタルモノニシテ従テ右ハ日本側ノ計画ト見ルヲ外ナシ

トノ点ニ帰着スルカ如ク右以外ニ何等具体的証拠等ヲ挙ケ居ルニアラス唯是等推測ト一方過般来当地ニ二三日本浪人カ何カト策動シ居ル風説等頻ニ伝ヘラレタル

事実等アリ一部排日支那人中特ニ宜傳ニ努メ居ル向アル為
旁支那側ニテ右ノ如ク臆測シ居ルモノト考ヘラレル処其後種
々取調ノ結果

(一) 若シ日本人ノ計画トセハ殊更ニ附属地而モ我鉄道橋
下ヲ選ビテ直ニ日本側ニ疑ヲ懸ケラルルカ如キ愚策ヲ執
ラサルハ当然ニシテ右ハ現ニ外人方面ニモ同様ノ観察ヲナ
シ居ル向多キ了

(二) 当日ノ附近警戒ハ橋上ノミ平素通リ日本側ニテ行ヒ橋
下即チ京奉線全部ハ今回特ニ支那側ノ希望申出ニヨ
リ支那警備ニ委任セルモノニテ事件発生ノ警備責任ハ

REEL No. A-0811
0277
アジア歴史資料センター

支那側ニアリシモ而シテ假ニ爆藥ノ蒼通支那側ノ考ヘ居タル如ク橋梁下又ハ裏側ニ裝置シアリシトセハ警備責任ハ当然支那側ニアリ一説ニハ橋上ニ裝置シタリト云フモ滿鉄「ゴリッチ」其ノ他ノ破壞狀況ニ鑑ミ橋上ニ裝置セリトハ考ヘラレサルヿ更ニ支那側一部ニモ或ハ列車中ニ何等カノ仕掛ケアリシニアラスヤト説ヲ爲スモノスラアリ、

(三) 事件前附近ニテ我兵ノ爲ノ爲突殺サレタル支那人便衣隊ノ懷中ニ密書爆彈等ニ手懸リヲ得テ取調ノ結果或ハ意外ノ方面ニ聯絡アルニアラズヤト推測セラレツヽアルヿ、

(四) 当時被害列車ハ速度非常ニ後慢ナリシヿ一説ニハ「クロスト」附近ニテ殊更後慢ナリシト説モアリ其理由若シ急速度トセハ被害車輛ノ後ニ連結セル七八台ノ輛台車輛被害車輛ハ第十七一被害車輛突然ノ停車ニヨリ当然前ノ車輛ニ第十七一大槍ヲ語スヘカリシモ不拘全然其アトヲ無事ニ引返シタルヿ当日ハ列車カ何故カ皇姑屯ニ停車セシヿモ怪シマレ居ルヿ、

(五) 被害車輛四台ノ中内一台ハ事件ト共ニ火災ニヨリ燒キ盡サレタル處若シ必ヲモ爆破ニヨリ引火セシ爲ト考ヘラレス殊更発火セシメタル証據アリト説モアリ、

REEL No. A-0811
0278
アジア歴史資料センター

(ホ) 現場附近ノ支那側当局ノ警備ハ甚タ手薄ニテ殊ニ本
件直前ニハ警戒兵数名ノ下居ラス又支那側警戒兵中
負傷セシモノ一名モナキ事。

(ヘ) 該事件ト殆ト同時ニ京奉線南方面ニモ鉄橋破
壊事件二三アリ奉天派ノ後退ヲ妨害シタル
ル事実アルコト又黄河鉄橋破壊其ノ他此種ノ爆破
計画カ支那人ト雖モ可成進ミタル方法ニテ行ハレ居
ル節実アル。

(ト) 張作霖ノ護衛セシ列車ハ四個列車アリ何レノ列車又列
車中ノ何レノ車車輌ニ張座乗セシヤヲ正確ニ知ルコトハ

外部ヨリ見テハ到底困難ナルコト
等ノ事情明ナルニ件ヒ今迄本件ノ陰謀ハ或ハ意外ニモ
列車内部ニ迄モ相当連絡アリト疑ハルル形跡現ハレ其結果
当地支那人有識者中早クモ之ヲ以テ当初疑ヒシ如ク日本側
ノ計画ニハ非ス却テ反張派其他ノ方面ニ於ケル組織的計画
ニヨルモノト観察ヲ下スモノ漸次指頭シ相当有力トナ
リツツアル模様ニテ今後取調ノ進ムニ従ヒ眞相益々明瞭ニ
モート認メラルル就テハ貴地ニ於テモ殊更我方官憲ノ宣傳
ト認メラレサル方法ニテ可然宣傳方御配慮アリタク、
右御参考迄御依頼ス、

(本電各報先在満洲各領事、天津、上海、漢口、広東、青島
大臣公使ヘ転電セリ)

REEL No. A-0811
0209
アジア歴史資料センター

井田哲談話(二)

機密公第四三一号　昭和三年六月十三日（六月十八日接受）

外務大臣男爵　田中義一殿

在奉天總領事　林久治郎

列車爆破事件ニ関スル井田哲談話要領ノ件

渡印清ノ計画ニ対スル井田哲談ニ関シテハ、本月八日附機密公第四一八号拙信ヲ以テ既報置キタル処、今回牛莊岸田領事ヨリ別紙写ノ通列車爆破事件ニ関シ井田哲カ牛莊領事館ニ於テ為シタル談話報告アリ其内容ニ付テハ俄ニ信シ難キ点多ク候ヘトモ御参考迄写送付ス。

本信写送付先　在支公使　牛莊領事

昭和三年六月六日午後四時井田哲ノ牛莊領事館ニ於ケル談話ノ要領

渡印清ノ計画ニ対シ井田哲ノ奉天ニ於ケル行動ニ対シ十九日出発二十四日奉天總領事館ニ河野副領事ヲ訪問シ渡印清ノ将来奉天省現在ノ各機関ヲ特殊ニ満洲統治ノ実権ヲ握リ東三省ヲ以テ治ムル一種特別ノ区域トナシ自政ヲ改革シ以テ日支ノ関係ヲ改善セムトスル計画アリ井田ハ東三省ノ実権ヲ張作霖カ掌握シ居ル限リ日本ノ満蒙ニ発展スルヲ不可能ナルヲ熟知シ我カ国ノ満

REEL No. A-0811
0288
アジア歴史資料センター

策ニ於テハ発展ヲ期スル決心ナリト述ヘタリ。
後印清ハ此ノ目的ヲ達スルニハ日本軍ノ諒解ヲ得ルヲ必要
アリトシ後ハ井田及王精一ト共ニ関東軍河本参謀ニ面
会シ上井田ハ通訳ヲ為シ本計畫ヲ説明シ諒解ヲ求メタル
ニ河本参謀ハ井田ニ対シ趣旨ニハ賛成スルモ首脳者カ健ニテ
ハ責任不十分ナリト雖ヲ以テ為更ニ計畫ノ一部
ヲ変更スルヲトシ大連ニアル恭親王ヲ擁立スルヲ
金子素親王ヲ説イテ奉天ニ連レ来リ本計畫ノ主脳ニ推シ
松隆洋行ノ階上ニ於テ井田、後、王ト共ニ河本参謀ト会
見シ計畫ノ一部ヲ変更シ統領ニ恭親王ヲ戴クヲトシタル

旨ヲ説明シ軍ノ諒解援助ヲ求メタリ。
本計畫ノ実行ニハ相当ノ資金ヲ要スルモ目下其準備ナシ
資金調達ノ方法トシテ後日石ニ打電セハ直ニ為替
元ノ送金ヲ受ケ得ルモ東三省ニ特ノ勢力ノ侵入ハ日本側ニ
対スル関係上ヨリスルモ不得策ナルヲ以テ之ヲ見合セ恭
親王ノ手ニ於テ之ヲ調達スルヲトシ親王ハ一旦大連ニ引
返シ不動産ニヨリ金融ヲ求ムルモ敏速ニ行ハルヲ以テ
親王家ニ秘蔵セル骨董類ヲ賣却或ハ擔保ニ供シ資
金ヲ調達スヘク目下親王ハ此ノ方面ニ活動中ナリ。
二、列車爆破事件ト満ノ関係。

REEL No. A-0811
0281
アジア歴史資料センター

後ノ計畫トシテ北京ヨリ引揚ゲタル張作霖ノ列車ヲ爆破セムトシ之ヲ実行シタルモノナルカ右爆破方法ハ満鉄線ト京奉線ノクロス点ニ於テ満鉄ノ陸橋ニ黄色火薬百五十瓩ヲ装備シ電氣装置ニテ点火爆発セシメタルモノニテ之ヲ実行シタルモハ勿論便衣隊ナルカ此ノ便衣隊中邦人モ介在シ居タリ爆破ハ大成功ヲ收メタリ本件爆破作業ハ到底素人ニテナシ得ル所ニアラス、

尚現場ニテ日本兵ノ為ニ刺シ殺サレタル二名ノ支那人便衣隊中ノ一名カ後ノ命令書ヲ携帶シ居リシト謂フモ後ノ右命令書ヲ作成交付シタルトナク又主謀ノ

書キタルモノニモアラス甚タ不可解ノモノナリト後ハ漏シ居タリト、

三、張作霖ノ死亡

後ト連絡アル筈ノ者百五十余名ハ奉天城内ニ於テ張作霖ノ部下トシテ現ニ其職ニアリ彼等ヨリ齎ラシタル情報ニヨレハ張作霖ハ重傷ニテ全然意識ヲ失ヒ居リシカ大元帥府ニ帰還後注射ニヨリ一時覺醒シタルモ五日午後一時十五分遂ニ死亡シタリ然ルニ之ヲ発表スル件ハ内部ノ動揺ヲ未ス虞アリ為ニ絶対秘密ニ附シ居ルモ大元帥ノ寝室ニハ未タ線香ノ香コソナレレ香水ノ香紛々タリト謂フ

REEL No. A-0811
0282
アジア歴史資料センター

四、張学良ノ帰奉ト内人今後ノ計畫、

張学良ハ飛行機ニテ一昨五日夜帰奉シタル事実ナリ帰路満鉄線ノ上空ヲ通過スル中ハ日本軍ヨリ高射砲ヲ以テ射撃セラルル危険アリトシ長春ノ北方ヲ迂廻シ南方ヨリ奉天ニ入リタルモノニテ之カ為メ空ヨリ奉天ニ着陸シタルモナリ

將由遼ニテ着陸シタルモナリ

学良ノ帰奉迄奉天主脳者ハ只国章狼狽為ス所ヲ知ラサリシカ学良帰奉シ其重鎮ニテ彼ノ帰奉シタル翌日ナル六日ニ在奉支那新聞代表者記者等十五名ヲ集メ張大帥ノ死亡ヲ報道シタルモノハ死刑ニ処スヘキ

旨ノ申渡ヲ為シ又列車爆破事件ノ首謀者ト目サルル渡印清ハ奉天附属地ニ居住シ居レルヲ以テ之カ引渡ヲ日本官憲ニ要求シ一面蔣介石、閻錫山、馮玉祥ニ対シテハ今回ノ列車爆破ヲ件ハ日本側ノ陰謀ニ基クモノナルヲ以テ此際内乱ヲ止メ南北一致外敵ニ当ラサルヘカラストノ通信ヲ発シ更ニ今後ノ方針トシテハ自己ハ若年ニテ今直ニ父ノ後継者タルヲ以テ困難ナリトシ差当リ熱河ニ駐在セル馮玉麟ヲ勧カシ彼ヲ奉天ニ招致シ主脳者ノ地位ヲ譲ヘ一時々局ヲ收拾セムト決意シ昨六日午前十一時飛行機ニテ熱河ニ向ケ出発シタルカ若シ右ノ計畫ニシテ

REEL No. A-0811
0283
アジア歴史資料センター

失敗ニ帰スルハ最後ノ手段トシテ日本ニ対シ戦ヲ宣シ
南満鉄道ノ各地ヲ破壊シ交通ヲ杜絶セシメタル上者方
面ニ亘リテ日本軍ト交戦シ日本人ヲ惨殺シタル上玉砕セム
決意セル如シト若シ彼ニシテ斯ル行動ニ出ヅル事ハ或
地方ノ居住邦人ハ満南事件ニ類スル惨虐ヲ蒙ムル虞
アリ此点十分ナル注意警戒ヲ要スベシ、

五、張印清ト楊宇霆及劉省長トノ関係、

張ハ楊宇霆ト連絡アリ楊ハ今回列車爆破計画ハ予
知シ居リシモノナルベシ張ハ列車爆破後暗號電報ヲ以テ
楊ト電報ヲ交換シタル事実アリ此ノ電報ニ使用セシ

暗号ハ奉天幹部間ニノミ使用スルモノニテ張楊ヨリ其ノ符号ノ
交付ヲ受ケタルモノナリ而シテ張ハ特未楊ト共ニ予ヲナキモノト欲セス
適当ノ時機ニ彼ヲ排除セントスル意嚮アリ

劉省長モ張ニ対シ南軍ブラックリストヲ作成シ奉天側
首脳者ノ氏名ヲ記シ其上ニ○印及◎印ヲ附シアリ○印ハ
私財没収◎印ハ私財没収ノ上死刑ニ処スト云フ符号ナリト云
フカ自分ニハ如何ナル符号アリヤ特未張作霖没後落ノ
幾ハ直ニ楊ニ頼ムト申込ミ張ハ之ヲ承諾シタリト云フ、

六、呉俊陞ノ態度、

呉俊陞ハ平ラ関東軍ニ対シ特未白色ノ特未進退ハ軍

REEL No. A-0811
0284
アジア歴史資料センター

ノ指示ニ従フヘシ郎チ下野ヲシテ可トセハ下野ヲシテ現職ノ
メ止マルヲ適当トセハ現職ニ止マルヘク進退總テ軍ノ指示
ニ従フカ故ニ自己ノ生命財産ト日本軍ニ於テ完全ニ保護
セラレ度シトノ一札ヲ軍ニ差入レ居レリ故ニ吳カ死亡セサ
リシナラハ事ヲ擧クル際彼麾下ノ黑龍江軍ハ後ニ於
テ使用シ得ラレモ可ナルニ今ヤ彼ナシ後ノ損害亦多大
ナリ

七、後印情其ノ後ノ行動、

支那側ヨリ日本官憲ニ後ノ引渡シヲ要求シ来リシ為日本側
ハ後ヲ附属地ニ居住セシ置クコト困難ナル状態ニ至

リタルヲ以テ昨五日奉天憲兵分隊憲兵南上等兵附
添ヒ後ヲ大連ニ赴カシメタルカ第二次計畫ノ実行前ニ
彼ハ帰奉スヘキヲ云フ、

八、後一味ノ第二次計畫

後一味ハ第一次計畫タル列車爆破予件ハ早期以上ノ成功
ヲ收メタルヲ以テ近ク第二次計畫ノ実行ニ着手セントス
第二次計畫トハ奉天城ノ占領ニシテ其ノ方法ハ夜間大南門
鼓樓及鐘樓ヲ黄色火薬ヲ以テ爆破シ電話交換所
発電所ヲ襲ヒ爆弾ニテ之ヲ破壊シ(主要部分ヲ破壊セス
一時使用ニ堪エサル程度ニ止メ従業者ヲ斃ササルコト)軍資

REEL No. A-0811
0285
アジア歴史資料センター

金ヲ得ル為中国銀行ヲ襲ヒ金庫ヲダイナマイトニテ破壊シ現金ヲ奪フ手筈ヲ図メアリ此際ハ多数ノ便衣隊ヲ域内ニ侵入セシメ（便衣隊中ニ邦人五六十名アリト云フ）稼ヲ連絡アル巡警千五百名及其他現職ニアル連絡者ノ加担ニヨリ完全ニ奉天域ヲ占領スルノ計画ナリ資金調達ノ為出連中ノ恭親王カ和日中ニ資金ヲ携ヘ来奉スヘク武器ノ準備モ見込アリ近ク之レカ実行ニ差掛ケスヘシト。

九、最後ノ目的

第二段計画成功功セハ東三省ノ統領トシテ恭親王ヲ推

戴シ漢人軍ノ指揮権ヲ握リ南京政府ノ議会ハ現在ノ議員ヲ居据ハラシムル法ヲ立テ方ニ参与セシム其他行政権司法権ノ行使并ニ財政ハ東三省人ノミニテ之ニ当リ独立ヲ宣言シ日本ノ保護ヲ受ケ若シ外敵ト交戦等ノ場合不利ニ陥ルハ満蒙ノ治安維持ヲ名トシ日本軍ノ出動ヲ乞ヒ両軍ノ武装ヲ解除セシメム斯クスレハ外敵ノ領内侵入ノ虞ナク程メテ安全ナリ尚日支経済関係ヲ改善シ日本側ニ鉄道及鉱山ノ採掘権ヲ許可シ日支合辦事業ノ発達ヲ助成シ土地ノ商租ヲ認メ朝鮮人ノ水田経営ニ便ヲ与ヘ以テ満蒙ノ開発ヲ期スヘシト而シテ一面ハ東省其他ヨリ移住シ来ル支

REEL No. A-0811
0286
アジア歴史資料センター

那人ハナルベク入境ヲ阻止スベシ其ノ方法トシテハ本籍地和
車ノ證明書ナキ者ハ入国ヲ許可セザル方針ヲ執リ
南方共産主義者ノ侵入ヲ防止スベシト要スルニ日本ノ保護
ノ下ニ統領ニ恭親王ヲ擁シテ東北省ノ東北省人ノ手ヲ以テ
立憲的政治ヲ行ヒ百政ヲ改革シ日本トノ政治的経済
的関係ヲ密接ニシ満蒙ノ開発ヲ期シ省民ノ福利増
進ニ努ムベシト

張作霖列車爆破事件概況書（昭和三年六月十四日調）

昭和三年六月四日張作霖北京ヨリ奉天ニ帰還ノ途中午前
五時ニ十分其搭乗列車カ奉天城ヲ去ル約一粁ノ南満鉄道
両鉄道「クロス」地点ニ差懸ルヤ突然爆破セラレ張作霖吳
俊陞以下奉天派要人多数或ハ死亡シ又ハ重軽傷ヲ負フニ
至レルカ今日迄ニ判明セル右事件経過概要左ノ如シ

一、列車爆破ト其ノ当時ノ状況

(イ) 爆破、昭和三年六月三日午前（特十五分張作霖ハ護衛
二個列車ヲ先頭ニシテ北京ヲ出発シ奉天ニ向ヘルカ途中山
海関ニテ吳俊陞以下奉天派要人多数ノ出迎ヲ受ケタル

12

REEL No. A-0811

0287

アジア歴史資料センター

上奏ノ乗車シタル列車ヲモ先行車ノ中ニ加ヘ（但シ吳後陸ノミ
張作霖ト同車ス）同日午後八時山海関ヲ出発セリ然ルニ亞
四日午前五時三十分右張作霖搭乗車南滿・京奉両
鉄道「クロス」地點ニ差掛ルヤ突然一大音響ト共ニ爆破
セラレタルカ右ニ付当時張作霖及吳後陸ト同乗シ居タル
憲兵少佐ノ談ニ依レハ張作霖ハ一時失神状態ナリシモ間
ニ対シテハ答アリタル由ニテ其ノ内護衛兵集マリ来リ附近
ニアリタル自動車ニ張ヲ救ヒ入レ奉天城内將軍公館
ニ連レ行キタル如ク又吳後陸ハ自己ノ衛兵他ノ列車ニ居
タル爲後ニ至リ救ハレテ奉天城内ノ私宅ニ移サレタルモノ

如キノ極ナリ、
(ロ)現場ノ警備・爆破ノ現場ハ南滿、奉海両鉄道ノ「クロス」
地点ナリシ爲日支双方ノ警備ノ責任ニ関シ新聞紙等ニ於
テ種々議論ヲ生シタルカ右ニ関シ同地方南滿附沿線ヲ警
備シ居タル三谷憲兵少佐ノ談ニ依レハ六月三日支那憲兵
隊察司令代表者ハ三谷少佐ヲ訪ヒ同夜張大元帥帰奉
スヘキニ付察司令ハ瀋陽、皇姑屯両駅間ノ京奉線ヲ騎
兵五十名ノ外憲兵数名ヲシテ警戒スヘキ処南滿線ヲ
日本側ニテ警戒スル関係上第一両線「クロス」地點附近ニ
テ日支間ニ衝突等有リテハ面白カラサルヲシテ平素知合ノ

REEL No. A-0811
0288
アジア歴史資料センター

日本側憲兵隊ヨリモ数名ヲ同地點ニ派遣シ聯絡ヲ取ラレ度キ旨申出有リタルニ付三谷少佐ハ上司及軍部トモ打合セノ上右支那側ノ要望ヲ容レ其ノ結果三日午後八時頃下士一名上等兵二名ヲ支那側ニ赴カシメ尚我憲兵ハ守備隊監視所ニ駐在シ時々「クロス」地点ニ至リ支那側ト聯絡ヲ取リ居タル由ナリ。

然ルニ瀋陽駅ノ警戒ハ相当厳重ナリシモ拘ハラス瀋陽皇姑屯両駅間約一哩ノ沿線ハ前記五十名ノ騎兵隊ノ他ニ警戒地ニテハ乗馬シ居ラサリシ由ト前記日支聯絡ノ為ノ憲兵数名ニ当リ居ルノミニテ「ガード」近クニハ漸ク一

名位ノミ居タル由ニテ又事件当時現場ニ居合セタル吉野刑事ノ談ニ據レハ事件前五十分頃警戒兵ノ中五六名乗馬ニテ現地ヲ去リ何レヘカ向ヒ又「クロス」地点ノ満鉄「ガード」ヨリ西方ニハ殆ト警戒兵ヲ認メス東方沿線ハ「ガード」附近ニ名人レヨリ数十間ヲ離レテ三四名位アリタルトノコトニテ何レニシテモ警戒手薄ナリシハ事実ナルカ如シ。

他方満鉄鉄道線路ノ警戒ニ付テハ京奉線ノ「クロス」地点ヨリ南方二百米突ノ地点ニ分遣所及櫓式見張所アリ平素八名ノ守備兵ヲ置キタルモ当夜八時前之ヲ十名ニ増シ特校一名ヲ付シ警戒セシメ約一時間毎ニ守備

REEL No. A-0811
0289
アジア歴史資料センター

兵一名及憲兵等「クロス」地点方面ヲ巡邏シ回レ支那側ト
聯絡シ居タリ（尚同夜十一時頃支那人数名ヲ監視所附
近ニ認メタルカ次テ四日午前三時半頃三名ノ挙動怪シキ
支那人ヲ認メタルニ付我守備兵三人ニテ誰何セルニ抵抗シタ
ルヲ以テ即座ニ突殺シタル其後予件近別経ノ車ヨリ予
件直後義支那兵ハ狼狽シテ我方ニ向ツテモ機関銃ヲ
盲射シタルカ日本側応射セス其中銃声止ミタル趣ナリ）
(ハ) 犯人ノ本件爆破ハ其結果ヨリ判断シ相当大仕掛ニ而
モ充分ノ準備ヲ以テ実行セラレタルモノト認ナラルルモ後述
(二) 日支共同検証ノ結果大体其ノ装置個所等判明シタル

ノミニシテ未タ其ノ何人ノ手ヨリ又如何ナル方法ヲ以テ行ハ
レタルモノナルカハ判明セス
但シ前顕(ロ)未鈑我守備兵ニ突殺サレタル支那人ノ懐中
ニ露西亜式ラシキ爆烈弾ト認ムル漢字ノ手紙アリ其ノ
内容ハ「一様由ヒ来ラス決行スベシ」ト云フ趣旨ノ南方側ノ密書ニ
テ又封筒ニハ奉天附属地彌生町ノ住所ト東三省宣撫
使後印清ナル名前記ラレ居タル由ナリ而シテ右後印清ハ
事件直後奉天附属地ニ居タルニ付我私服憲兵護送ノ
下ニ密ニ大連ニ送リ取調中ナル趣ニ付其ノ内何等カノ真相判
明スベシト豫期セラル（浸ハ豫テヨリ楊宇霆其ノ他支那側名

REEL No. A-0811
0298
アジア歴史資料センター

方面ニ相当聯絡アルモノ如シ)

(二)日支共同検證、在奉天林總領事ハ不取敢日支共同ニテ現場検証ヲナシ置ク必要アリト認メ六月四日及ビ五日在奉天總領事館ヨリハ日領事外数名、支部側ヨリハ交渉署日本科長等ヲ派遣シ共同検證ヲ行ヒタルカ其結果大要左ノ如シ

(一)「クロスレ」地点(南滿線ハ陸橋ニヨリ上部ヲ通リ京奉線ハ陸橋ノ下ニ通ス)鉄橋下附近線路上ニ張作霖等ノ乗リ居タル貴賓車次テ食堂車及寝台車ノ順序ニテ三輛殘骸ヲ止メ其ノ前方東方数十間ノ地点ニ上

部破壊セル鉄鋼車一輛アリ爆弾命中セサハ食堂車ニテ爆発ト次次ノ爲鉄軌ヲ上ムルハ貴賓車ハ屋根、窓硝子吹キ飛ハサレ床ノミ殘リ後日車ハ焼盡サレタリ爆破ハ張ノ乗車中ノ居室ヲ狙ヒタルモ外レテ其隣室ト食堂車ニ命中セルモノ如シ京奉線山領技師及其人顧等ノ言ニ依レハ京奉側損失約二十萬円内外ノ由、京奉線ハ一時不通トナリシモ六日七日復舊セリ、

(二)京奉線上、滿鉄線陸橋ハ隧道ニ滿鉄線モ暫ク不通トナリシカ郎日假橋ヲ建設シ列車ヲ運転セリ滿鉄側損害約五、六萬円ノ由、

REEL No. A-0811
0291
アジア歴史資料センター

(三)橋上ヨリ陸落セル陳橋鉄板ノ位置及「ピーア」上部破損ノ
状況等ニ徴スルニ爆薬ハ地上ニ装置シタルニアラスシテ上部
陸橋ノ何処カニ装置セラレタルモノト認定サレ支那側ハ橋上
ヨリ下ニ吊レタルモノナラムト言ヘルモ或ハ橋上「スパン」附
近ニ装置セルニアラスヤノ疑アリ

二、張作霖其ノ他要人ノ被害

張作霖ノ客体ニ付テハ支那側ニ於テ之ヲ厳秘ニ附シ居ル為
正確ナル処ヲ知リ得サルモ奉天留守司令臧式毅其他ノ
該ヲ線合スルニ張ノ負傷ハ眼瞼、頬、足部等ノ小怪我並腕
骨ノ挫折等ニテ且脳震盪ニ悩マサレ居ル趣ナリ又支那側

ニテハ些シタル「ナキ様宣傳シ居レ共既ニ六月四日死亡説ヲ
伝ヘラレ居リ而シテ林總領ヲ、竟見ニ依レハ車輌ノ破壊
状態及此ノ後ノ諸般ノ情ヨリ察スルニ張ハ未タ死亡ニ至ラ
ストスルモ少ナクトモ非常ナル重傷ト認ムルヲ眞ナルカ如シト
ノ由ナリ、

吳後陸ハ事件後間モナク死亡シタル趣ナルカ黒龍江省政府
ニ於テハ奉天上將軍公署ヨリ吳督辨病氣ニテ当分黒
龍江省ニ帰任出来サルニ付オ十八師團長吳素未(吳後陸
ノ甥)ニ黒龍江省督軍護理ヲ命スル旨電報アリタル趣
ヲ六月八日発表セリ、

REEL No. A-0811
0292
アジア歴史資料センター

尚莫穂惠重傷、千国軒、潘後拉傷ヲ負ヒ名田ニテ其ノ他ニモ重軽傷者多キモアル模様ナリ。

三、日支間ノ関係

(イ) 事件当時支那側衛兵ハ狼狽シ機関銃其ノ他ヲ盲射シ我鉄道守備隊ニモ弾丸飛来セルモ我方ニハ応射セサリシ為少時ニシテ止メリ。

(ロ) 事件後支那人間ニハ爆破ハ日支人ノ所為ナリト宣傳シアリタル為本邦人ニ対スル支那人ノ心理頗ル悪化シ奉天附属地外居留邦人ノ憂慮ヲ感スルモノ多ク為ニ奉天埠内居住者ノ大部分ハ事件後自発的ニ附属地ニ避難シタリ尤モ支那

側ニテハ対日感情ノ悪化ニヨル日支間ノ衝突ヲ誤レタルモノ、如ク支那新聞紙ニ対シテハ爆破事件ニ付全然沈黙ヲ守ヲシメ何等ノ記事議論ヲモ掲載セシメス。

然ルニ奉天省城附近ニハ黒龍江軍(約二、三〇〇)駐屯シ居ル処昨後陸死亡ノ報アリテ以来同軍ハ日本側ニ対シ復仇ヲナスヘシトノ説頻ニ伝ハリ居留民ノ不安増大セリ右ニ対シ林総領事ハ各方面ト連絡シ厳重警戒スルト共ニ六月八日飯尾ヲシテ臧参謀長(留守司令)ニ対シ警戒方ヲ極力申入シメ置キタル処支那側ハ全責任ヲ負フヘキ旨言明セシ趣ナリ(尚林総領事ハ六月七日交渉負死爆破

REEL No. A-0811
0293
アジア歴史資料センター

事件犯人逮捕及此種事件再発防止方ヲモ公正ヲ以テ速
ヤカニ置ケリ」

(ハ) 吉林省、黒龍江省等ニ於テモ本件ニ関シ種々流言傳ハリ
人心動揺セルノミナラス邦人ニ対スル感情モ多少悪化ノ徴
候アルカ如キモ目下ノ処支那側ニ於テ厳重警戒ヲナシ居ル
為メ未タ特ニ不穏態ノ行為等無シ但シ我関係各領
事ニ於テハ充分情況ニ注意シ万一ノ場合ニ備ヘツヽアリ、

爆破事件
共同調査結果

奉天
本省 昭和三年十月廿一日往着

田中外務大臣 林總領事

第三四八号 (別電)

貴電第九四号ニ関シ
列車爆破事件共同調査ノ結果我方ニモ於テ報告書ヲ起
草シ内田ト支那側立会人トノ間ニ数回ノ審議ヲ重ネ先ツ支那
側ハ詳細ノ点ニ至ル迄責任回避ノ多ク態度ヲ曖昧ニシテ共同
調印ニ応セサルニ付更ニ幾度ヲ繰返シ我方ハ誠意ヲ
以テ答辞ナク支那側主脳者ニ於テモ共同報告ヲ好ユス其ノ
侭ノ推移ニ委セントスル意嚮明カトナリ又我方ニ於テモ強テ其

REEL No. A-0811
0294
アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

REEL No. A-0811

ノ通牒ヲ送ル義事実関係ノ疑点ノ点ヲ打切リ少ナキヲ以テ

リ本官充軍然報告書ヲ提出セリ其ノ内容要領左通

(一) 前文(プロトコル)ニ於テ前記ノ通軍然報告ヲセル次第ヲ述

ノ次ニ本文ニ於テ

(二) 第一 被害被害状況ノ項ニ於テ満鉄側陸軍及邦側事

軍等被害状況ヲ述ベ之ニ対シ支那側異議ナキ

ヲ附注シ

(三) 第二 事件ノ経緯状況ノ項ニ於テ (a) 日支間発戦

打合ヲ経シ之ニ支那側ノ協軌上共同警戒中出対シ我方

ニ於テ之ヲ拒絶セル (b) 日本側ノ警備 (c) 日本側ノ見

P.V.M. 58 70

ル支那側警備振ニ対スル支那側ノ主張ヲ怪シ

(四) 第三 爆動不穏ノ出現ノ項ニ於テ我守備兵ノ射撃殺害

セラレタル支那人ニ対シ爆破ヲ仕掛ケ爆発ノ為ニ

ヲ陣述シ

又備撃側ヨリ現場ニ於テ投擲ス強爆報ノ提示ヲ受ケ

(四) 第四 爆破原因ノ項ニ於テ共同調査ニ資スベキ事件後

四時間ヲ経過シ原跡消レ且爆破ノ原動物体消滅方

法等ノ科学的知識ナキモノ利学ヲ得ル所ナシモ被害ノ

此ノ点及程度ヨリ推シ相当多量ノ爆薬ヲ使用シ電気

仕掛ニ依リタルモノ十ハ爆薬ノ性質及効果等

P.V.M. 58 71

部附近ノ車内ト部カ又ハ橋脚鉄柱ト石垣ノ間ノ空隙個所ニ装置セルモノト認メ尚「クロス」通過ノ際列車ノ速力緩慢ナリシ了及ビ爆破ハ列車ノ編成ヲ好ク知ルヲ要スル点ハ本件真相ヲ知ルニ有力ナル論據ナルヘキ観察ヲ下シ支那側ハ爆薬装置個所ニ付テハ全然明確ナル意志表示ヲ避ケタルヲ附言セリ左文郵送

北京、上海、天津、青島、広東、哈爾賓、吉林、齊々哈爾、長春ヘ轉電シ間島、鉄嶺、遼陽、安東、牛莊、満洲里、鄭家屯、通化、海龍、新民府ヘ暗送セリ

昭和三年六月廿一日　別紙添付

在奉天日本總領事館

領事　内田五郎

在奉天總領事　林久治郎殿

列車爆破事件調査報告書提出ノ件

昭和三年六月四日午前五時半奉天郊外滿鉄京奉西鉄道交叉地点ニ於テ勃発セル列車爆破事件ニ付依命八十代副領事及久保田、折笠両書記生帯同四日及五日ノ両日午前十時ヨリ午後一時半迄ノ間奉天交渉署開才一科長及安才三科長ト現場ニ於テ立会ノ上被害状況、現場整備状況、加害系統

REEL No. A-0811
0296
アジア歴史資料センター

爆破原因等ニ付詳細調査ヲ了セリ

依テ右共同調査ノ結果ニヨリ之カ共同報告ヲナスヲ其ノ必然任務ト思考セラル本官ニ於テ報告書ヲ起案上六月十二日之ヲ安井三科長ニ手交シ其審議ニ入リタルヨリ十五日ニ至ル迄前後數回ニ亘リ渉リ関井一科長及安井三科長ト交渉ヲ重ネタル他支那側ニ於テハ詳細ノ点ニ至ル迄態度ヲ躊躇シテ或ハ初ヨリ共同調印ノ意志ナカリシト避ケ又ハ其任務有セスト避ケタルニ付本官ハ共同調査ハ支那側ニ於テ之ヲ應諾シ現場ニ就キ事実之ヲ行ヒ我報告案ヲ受理シ審議ニ入リタルモノナルヲ以テ其結果ハ之ヲ取纏メ事件ノ真相ヲ出来得ル範囲内ニ於テ明カ

ニスルヲ要スル而シテ為解釈ナルヲ以テ支那側ハ上局ニ於テモ事実ヲ明カニシテ本件共同調査報告ヲ好マス事件其他ノ推移ニ任カス意衝突スルヤ二ニテ立会者ニ於テ共同ト調印ニ應シ得サル事情アルモノ如シ我方ニ於テモ強ヒテ之ヲ求ムルハ本意ニ非サルヲ以テ共同調印ヲ止メ本官単独報告ヲ基礎トシ参考ノ為メ之ニ支那側ト共同審議ニ於ケル意見ノ相違セル點ヲ従テ別紙ノ通リ報告書ヲ提出スルヲトセリ

REEL No. A-0811
0297
アジア歴史資料センター

昭和三年六月四日 滿鉄京奉交叉点地点列車爆破事件調査報告

第一 破壊被害狀況

(甲) 滿鉄会社側ノ破壞被害

(A) 鉄橋被害 (添附寫眞第一號)

別紙見取圖中(イ)(ロ)(ハ)(ニ)間ニ架設セラレタル二條ノ陸橋中(イ)(ロ)間ノ陸橋半下路橋及上路橋ノ二條ハ橋脚上部破壞ノ爲ノ墜落シ西側半下路橋桁ハ見取圖中(ヘ)(ト)附近ニ東側上路橋ハ(リ)附近ニ夫々横タハリ(ロ)(ハ)間陸橋ノ西側半下路橋ハ異狀ナキモ東側上路橋ハ下方道路(又)附近ニ墜落シタルヲ認メ

(B) 橋脚 (添附寫眞第一號)

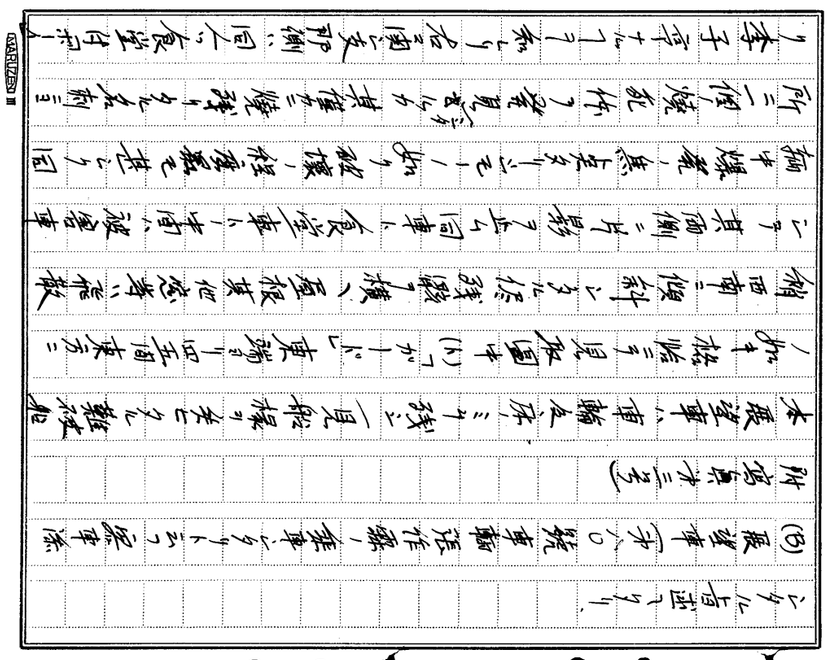
見取圖中(イ)ノ橋脚石崖、其上部ニ少計リノ破損ヲ認ムル外他ニ破損ノ箇所ヲ見サルモ少カノ爲石崖ハ相當損害ヲ受ケ居モノノ如シ

見取圖中(ロ)ノ橋脚ハ被害最モ甚タシク橋脚石崖上部西角中東側ハ十分ノ二西側ハ十分ノ一破壞セラレ居ル外爆破又ハ爆ノ爲石材殆ト風化シ且上部ヨリ地上ニ達スル亀裂ヲモ認メラルルヲ以テ蓋然取替フルニ耶サレハ將来使用ニ堪エ得サル狀況ニアリ。

(C) 電線、鉄橋附近滿鉄用電線ハ全部切断セラレ附近ニ

REEL No. A-0811
0298
アジア歴史資料センター

REEL No. A-0811



7.

シタルト云ヒ
(B) 展望車ヲ入ロ
(ハ) 荷物車ハ車輪食ヒ、ミナ錆ミ一見船板ヲ先ヒタル乗ル乗船
(ロ) 展望車ハ車輪食ヒ、ミナ錆ミ一見船板ヲ先ヒタル乗ル乗船
(イ) 荷物車ハ車輪食ヒ、ミナ錆ミ一見船板ヲ先ヒタル乗ル乗船
(ハ) 一ガ一ハ車端ヲ四方間東方ニ
(ロ) 展望車ハ車輪食ヒ、ミナ錆ミ一見船板ヲ先ヒタル乗ル乗船
(イ) 展望

ナリト云ヘリ

(C) 食堂車、寝台車（車輌オ二六号及二四号添附眞、オ四号）

食堂車ハ見取圖中(ハ)附近ニ寝台車ハ之ニ連續シテ其西方ニ

ニ残骸ヲ少メ共ニ焼残リ、車輌及鉄骨ハ外全部焼失シタリ

食堂車ノ北側ニ一個ノ焼死体発見シタルカ支那側立会者ハ右

ハ女ノ死体ナリト主張セリ

(D) 食堂車残骸ノ横ハル地上ノ「レール」破損シ枕木ニモ多少ノ

被害アルモノ、如ク認メラレリ

(註) 以上各項ニ付支那側立会者ハ何等ノ異議ヲ唱ヘズ、

オ二車件当時ノ警備状況

事件発生前後ノ満鉄京奉「クロス」地点警備状況ニ付

日本側ニ島守備隊長、三谷憲兵分隊長及支那側憲兵

隊金中尉ノ談及各種情報ヲ綜合セバ次ノ如シ

(イ) 日支間警戒打合

三日午後三時半頃支那側憲兵隊金中尉ハ南司令ノ

代理トシテ三谷憲兵分隊長ノ訪問ヲ受ケ張大元帥

帰奉ニツキ南司令ハ瀋陽駅皇姑屯駅間京奉線ヲ

騎兵五名ノ外憲兵五名ヲ以テ警戒シ度キ処南満

線日本守備隊ト衝突アリテハ面白カラサルニ付平素

知合ナル日本憲兵数名ヲ同地ニ派シ鉄橋下警戒連

REEL No. A-0811
0308
アジア歴史資料センター

後ヲトルト共ニ支那側憲兵モ時々橋ニ到リ連絡ヲトリタ
キ旨申出アリ三谷分隊隊長ハ橋上ハ満鉄汽車運行線
ナルカ故ニ日支側ニテ警戒スベク支那側憲兵ノ同所ニ到ル
都テ誤解発生ノ虞モアルニ付立ヲ拒絶シ橋下ノ警戒
ニ付テハ同反軍司令部トモ打合セ特ニ支那側ノ要望
ヲ容レ立ヲ支那側ニ譲ルコトヽシ同夜八時頃下士一
名上等兵二名ヲ金中尉ト共ニ現場ニ派遣シ守備隊分
遣所ニ駐屯時々「クロス」地点ニ降リ支那側ト連絡ヲ
トラシメタリ、

(注) 右ニ対シ支那側ハ三日午後三時半金中尉ニ谷憲兵

分隊長ヲ往訪シ橋上ニモ支那憲兵時々来リ連絡取リ
度旨申出タル処三谷憲兵分隊長之ヲ取次諾シタルニ拘
ラズ同夜八時現場ニ赴ク際軍司令官ヨリ命ナリトシテ
支那側憲兵ノ橋上ニ到ルヲ拒絶セリト異議ヲ述ヘタリ、

(13) 日本側警備

「クロス」地点附近ノ日本側満鉄線守備兵ハ平素八名ナルモ
三日夜ハ八時前ヨリ十六名ニ増員シ之ニ将校一名ヲ附シ
特ニ警備ヲ厳ニシ約一時間毎ニ守備兵一名ヲシテ「クロス」地
点ト分遣所トノ間ヲ警戒セシメ居ルモ事件勃発
当時ハ夜明後ナリシ為当番守備兵一名ハ展望台ニアリ

REEL No. A-0811
0301
アジア歴史資料センター

テ周囲ノ警戒ニ任シ其他ノ分遣所ニアリテ休息シ居タリ

(C)

支那側ノ警備

瀋陽駅ノ警戒ハ相当厳重ナルモノヽ如クナルモ自然発

瀋陽駅周辺奉線ノ警戒ニ當レル騎兵千余名中其

ノ約半数ハ憲兵司令自ラ之ヲ率ヒ時々巡視シ二

哩半ニ渡ル京奉線路一帯及橋下ノ警戒ハ残リ半数

ニテ之ニ当リ「クロス」附近ノ警戒ハ充分ナラサリシモノヽ如

ク事件勃発数十分間前集馬警備兵五六名ハ何

故カ現場ヨリ何レカヘ去リタルアリ「クロス」西方二哩ノ

ト警備兵ヲ認メス東側附近ニ僅カ一名同所ヨリ数十米

間距レタル地點ニ三四名居タルノミナリシモノト認メラル

(注) 右ニ対シ支那側ハ事件勃発数十分前騎馬警備兵

数名現場ヲ去リシハ事実ニシテ右ハ本三項記述便衣

隊死体検死ノ為赴ケルモノナリト述ヘ「クロス」附近ハ

事件勃発当時四五名ノ警戒兵作立シ居タル旨ヲ主

張セルモ死傷者ヲ一人モ出ササル點ヨリ見テ之ヲ信シ

難シ、

オ三、挙動不審者ノ出現(添付寫眞オ五号)

見取図中(ホ)附近ニ於テ日本守備兵ニ銃剣ヲ以テ刺殺サレ

タル二個ノ支那人死体ヲ見ルニ何レモ新調ト思ハルヽ麦稈帽

REEL No. A-0811
0302
アジア歴史資料センター

反支那靴ヲ履ケ頭髪ハ前髪結ハ二日経過セルモノト思ハレ
年齢ハ何レモ三十二三才前後ト認メラレタリ右ニ関シ三島
守備隊長ノ語ル処ニヨレハ四日夜明前往日ヨリ守備兵ハ展
望台附近ノ満鉄線路堤防ノ中腹ヲ厳密行セル挙動
不審ノ怪ヲ支那人三名ヲ発見シ之ヲ誰何シタル処右支那
人ハ手ニセル爆弾様ノモノヲ振上ケタルヲ認メ防禦上ヒムナ
ク二名ヲ刺殺シタルニ同支那人ハ本榴弾（添附寫参ノ
六号）及印清又ハ愚兄愚弟名義ニテ認ヲ捺ス老兄潤軒
先生等ニ宛テタル東方紙ト連絡アリト首肯セラルル不
穏文書三通（添附寫参ノ七号及乃至十三号）ヲ所持セルヲ

発見シタル趣ニテ右両人ハ本爆発事件関係者嫌疑者ナリトシ
テ各証據類ヲ提示シタリ
（註）右ニ対シ支那側ハ何等異議ヲ唱メス
第四、爆破ノ原因
共同調査ニ着手シタルハ事件後四時間ヲ経過シタル結ノ
ヿトテ支那側消防隊及満鉄現業員等悉ク集シ消火
及応急措置ヲトリ爆破当時ノ原形相当崩レ居タルノミ
ナラス爆破ノ系動物及爆破方法等ニ付テハ専門的知識
ヲ有セサル者ノ判定シ得ル処ナシモ調査ノ結果被害
ノ状況及程度ヨリ推シ相当多量ノ爆薬ヲ使用シ電気

REEL No. A-0811
0303
アジア歴史資料センター

仕掛ニテ爆破セ発セシメタルモノナルヘク爆薬ハ橋上地下又ハ地面ニ装置シタルモノト思ハレス又側面又ハ橋上ヨリ投擲シタルモノト認メ得ス結局爆薬ハ第八〇號展望車後部乃至食堂車前部附近ノ車内上部カ又ハ(ロ)橋脚鉄桁ト石崖トノ間ノ空隙箇所ニ装置セルモノト認メラレタリ尚被害ノ焦点タル展望車ト食堂車トノ中間附近「クロス」ノ東端ヨリ僅カ十五米突ノ地点ニ於テ停車セルモノ実ニ被害車輌及後続車輌カ殆ント脱線シ居ラサル事実ニ徴シ陸橋下通過ノ際ニ放ケル該列車ノ速カハ緩慢ナリシモノト認メラレタル點及関係列車ハ数個列車ニ分ケ

本件被害列車ハ二十輌ノ多キヨリナリ時々編成替ヲ行ハレ得ヘク外部ヨリ各車輌ノ位置ヲ知ルコト頗ル困難ナルニ拘ラス爆発カ殆ント其ノ目標車輌ヨリ外レザリシ事実ヨリ推察シ本件犯人ハ列車ノ編成ニ常ニ注意シ能ク之ヲ知レルモノト認メラレタル點ハ本件真相ヲ知ルニ有力ナル論據タルヘシト思考セラレタリ

(注) 右ニ対シ支那側ハ爆薬装置箇所ニ付テハ明確ナル意志表示ヲ避ケタリ

右ノ外事件ニ関係アリト認メタルモノハ悉ク之ヲ写真ニ撮リ其ニ記録ニ止ムルコトセリ

以上

昭和三年六月二十一日 在奉天帝国総領事館
領事 内田五郎

REEL No. A-0811
0304
アジア歴史資料センター